

## 文化祭



一日日、今来小中学校の文化祭が行われた。例年文化の日町民文化祭開催されているが、未発表の踊りな発表する機会を作るところにこの舞踊が盗端の二つだ。

「文化祭」という行事は、全国津々浦々で行なわれているのが、戦時やっていたのがどうか、占領政策の一端があるのだろうか。ともかく殆どの人職任が離れている東京生活では、私は居住地の行事は無関心だった。多聞催されていたのであるが、一度見に行ったことがあったし、勿論参加したともなかった。思ひ起してこの年の行事「最初」遭遇したの

は、終戦二年後の秋である。私達の三年は旧制最後の中・女学生で、それが高校となった。併設中学生として七級のない四年間を送る羽目になった。三年だったその中三年の時、文化祭を行つたので、校内は大騒ぎだった。出来ればかりの文化部の研発表といふことで、美術部、書道部がりでなく、各部は展用用の制作に大わらわらわらした。地蔵買だった私たちは近くで発掘れた土器の破片を何式、何式と分類し、机に乗せ、その形を模造紙書いて下部貼した。ペンキや白のちり紙を腕に折って作った花を沢飾った。しが鳥物客の一番の会合は、生徒が家から羽物を持ち寄ってのバザだった。

習着はそのまま諏訪、菅原校生になったのだが、私は母が学生時代を過ごした白本女子大、松柏寮の寮監の先生のお勧めで、同今の付属高校を受験して入学した。当時はまだ雑木林の山の中にあつた付属高校の第二寮に入り、様々な体験をした。入学直後に「書藝祭」といふ文化祭が行われた。クラスの三分の二は付属中学からの生

徒で、宝塚のファンも多く、出物は「レイナーの歌」と決まった。上高のある細身のか構はれて越後雪の役はなめた。信州の山猿だった私と云うことは、何か二枚目の袋が付いた。麓間も「カクハ掛合」をするのだと云う。そして見たとてまは、宝塚を真似たケルクル色の着る華やかなナイトを浴びたのだ。

結局、書齋を考えて、田言かたを立派にした方が審美的だと思じた私は、九カ月で諏訪に戻ると云うことが、肺リンパ腺炎になって、体を「浪」して早稲田に入った。

十二月初旬に行われた早稲田祭「わが国」年のクラスでは、「軍事研究事件」を紙に居すべし」と決めた。中心は、あつてリードして、したのは今は「キヨ」だった。田中甲の私自身、早稲田全学の歴史の知識を何もなかったもので、ただ感心するばかりだった。

「軍事研究事件」とは日本の軍制が進みつつあった大正十一年、一部の学生が校内「軍事研究団」を作ろうとして大隈講堂で発表式を行った。しかし建学の精神

「学」の独立を護つこと、登壇した軍人や教授を大勢の学生が次々と野分倒したので、散々の内に幕とつた。「あの「将校なりて」骨格」といって、その骨格もつたと云うらしい。

その翌日、五十人の学生を大隈講堂の像の前集めての反対集会開かれた。「吐武が壇上で演説を始めたところ、右翼団体と相模部の学生が襲いかかり、浅根次郎や吐武など「手ひどく暴行を加え、怪我人も多く出て、血の全隣日事件となった。その結果、この軍事研究団は結成されなかった」といって早稲田の建学の精神を象徴する事件である。

紙に居すべしは、あのものだったが、一枚目は、それが書いた。「早稲田全学には、居すべし」といって、では、いままで、一枚目からの全部を私が書いた。最後は、あわが、総論と「この建学は、耳を澄ませれば、また軍制の京壇」といって、結論した。

成程、終わって、その屋集まった。日さんが、「あの結論は、いい。今は、労働者の力が比較にならない程なき

いのだと言った。高校時代から運動に参加していたというには異卵千年後に起るの信とした様、その力を強調して言いたいと言った。全羨無縁の世界に立たねば、それならハーサルなど言ってくればいいのだ。終わってから大勢の即ち批判もあるな」と真赤な顔で言った。今は、私の結論でもあったのよ、この世のほどに騒ぎたいと思つた。

何カ月か後、講演に来た浅沼とが壇上で「僕たちが紙芝居に上つたのは、五年後壇上で凶刃に倒れたのだが、それをアフレコ見た人達も今はやなやなうたうたうたうた、三千公蔵から勤めた編輯造の会社でも文化祭があった。いろいろなプログラムがそれぞれ出品したり、実演したりした。美術クラス、写真クラス、書道クラス、活花クラスなどの出界体育館狭くと飾られた。隅敷かれた貴の上には茶道のお茶会が挿じたり、変わったところではミュージックも件切りの影で実演して、私、作曲プログラムで、女性ばかりだった。きつと上達

するなうと諷刺した人に誘われたのだが、定時後は保育園に未婚各迎へに行かねばならぬ私は、身体めの早暮外には海層する時間がまよなかつた。それ、その方面の能力欠けてもいたのだ。今、全進級となつたそんな私でも、背後をソロソロ通る体育館の床の「サ」座つて海層と、女は絶対言ひきれない」と男の気配を感じた。

入来町に来た文化の町、町民文化祭開かれ、いろいろ知つてはいたものの、馴染もなかつた。よつて行つたよつて来たよつた。歌をたつてからは、二首短冊を出品するといふので、おまけに展示会場赴くよつてなつた。田舎の人は忙しくて時間はないので、思つていたが、なみのなの、細かい紙金形、繻、造花など見事なものだし、ちぎり絵、洋画、加々綴、日本画もある。数組の活け、教室の出品が好む鏡、盆栽、菊なども、精緻められたものが展平で、文化ホール、舞踊は、毎時、の発表が、このころ、去年は、廣の「海層」の発表が、このころ、私、この

